

<様式>

学 校 名	山形大学附属中学校 山形市松波二丁目7-3 TEL 641-4440 FAX 641-4441	校 長	森 本 真 紀
		研究主任	大 隅 一 浩
研 究 主 題	生徒が「学びの主体」となる授業の共創（1年次） ～伴走者としての教師の在り方～		
研 究 主 題 設 定 の 理 由	<p>研究主題は、主に次の三点を基に設定している。</p> <p>① 学校教育目標の実現 本校の学校教育目標である「健康かつ明朗で、豊かな知性と誠実な社会性を持ち、自主的で実践力のある生徒を育てる」の実現を目指し、授業において目指す生徒の姿を生徒と教師が共有し、実践を積み重ねていく。</p> <p>② 前研究の成果と課題 前研究では、研究主題「探究的な学びを通じた資質・能力の育成」の下、生徒の確実かつ高度な資質・能力の育成を目指し、三年間の研究に取り組んできた。研究の成果として、教科の本質に迫る生徒の姿を具現化し手立てを明確にすること、単元等のまとまりを生徒にも意識させること、ICT機器を効果的に活用することなどによって確実かつ高度な資質・能力の発揮が見られたことが挙げられる。一方、課題として、教科等の枠を超えて長期的に資質・能力を育成していく視点や、学びに向かう力、人間性等について学校全体で共通の捉えをもって育成していく手立てが十分とは言えなかったことが挙げられる。</p> <p>③ 最近の教育の動向 最近の教育の動向として意識しているのは、OECDが進める Education2030 プロジェクトにおいて公表されたコンセプト・ノートと、中央教育審議会答申「「令和の日本型学校教育」の構築を目指して」において示されている内容である。コンセプト・ノートの中で、「VUCA」時代に必要な力として「エージェンシー（Agency）」が登場する。「エージェンシー」を発揮し、ウェルビーイングな未来を実現しようとする生徒の姿は、本校の目指す生徒の姿にもつながるものであると考える。また、中教審答申では、「個別最適な学びと、協働的な学びの実現」と、そのための教職員の姿として、「子ども一人一人の学びを最大限に引き出し、主体的な学びを支援する伴走者」となることが示されている。</p> <p>以上のことを踏まえて、研究主題を設定した。</p>		
研 究 の 目 標	<p>本研究は、生徒が主語となり、教師は伴走者として生徒と共に授業づくりを行っていくことを通して、「学びの主体」となる生徒の実現を目指すものである。「学びの主体」とは、「よりよい社会の形成や高い自己実現を目指し、学習の目標・内容・方法を適切に自己調整し、粘り強さの原動力を基に試行錯誤し、教科等の本質に迫る考えや価値を生み出す姿」と捉えている。</p> <p>これまでの授業づくりは、教師が生徒の実態を丁寧に把握して付けたい力を設定し、その力を育成するために様々な手立てを講じ、学習活動を行わせることで付けたい力を育成していくという営みであった。本研究は、そうした教師が生徒のために行ってきた授業づくりの在り方の転換を目指している。</p> <p>本研究では、教師が行ってきた授業づくりに生徒も参画し、付けたい力やなりたい姿の設定とその力や姿につなげるための学びの構築及び実践を、生徒と教師が協働的に行っていく。教師は、生徒自身も捉えきれていない願いや学びを引き出したり高めたりする伴走者として、生徒の学びに寄り添っていく。</p>		

<p>研究の内容</p>	<p>本研究では、以下の内容で目標の実現を図る。</p> <p>① <b>教科の本質に迫る教材開発と生徒が学習の目標・内容・方法を自己調整する場のデザイン</b> 前研究で目指してきた「探究的な学び」の実現を前提とし、生徒が授業をつくるために、学習の目標・内容・方法を自己調整する場の設定及び自己調整を行わせるための多様な支援を行っていく。</p> <p>② <b>教科等の枠を超えて資質・能力を発揮する場としての総合的な学習の時間 LIVE の構築</b> 前研究から行ってきた「探究単元」の再構築を図り、生徒がよりよい社会の形成に向けて、多様な他者と協働し、課題解決を図る探究的な学びを行っていく。三年時には、三年間の学びの成果として「卒業論文」の作成を行う。</p> <p>③ <b>批判的・探究的な教材研究に基づく道徳授業の提案</b> 生徒が道徳的な判断力や実践意欲等が高められるように、「道徳授業のねらい8類型」を基にした授業構想や発問づくりなどを行っていく。</p>								
<p>研究の方法</p>	<p>本研究では、以下の方法で研究に取り組んでいく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>① 学習指導研究協議会、授業研究会等の実施 ② 大学をはじめ、各教育関係機関との連携 ③ 研究協力者の公募による県内各中学校との指導方法の共有 ④ 研究成果をまとめた「教育実践」の作成と発信</p> </div> <p>検証は、授業実践後の事後研究会や教科部会で検討された内容の分析、アンケート調査の比較分析などによって行う。</p>								
<p>研究の計画</p>	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">5月25・26日</td> <td>学習指導研究協議会（全教科1授業提案）</td> </tr> <tr> <td>10月頃</td> <td>全体授業研（総合）</td> </tr> <tr> <td>9月～12月頃</td> <td>教科毎の授業研 ※時期は教科毎に設定</td> </tr> <tr> <td>1月頃</td> <td>全体授業研（教科）</td> </tr> </table> <p>※研究成果や授業実践は、本校 HP で随時公開を予定している</p>	5月25・26日	学習指導研究協議会（全教科1授業提案）	10月頃	全体授業研（総合）	9月～12月頃	教科毎の授業研 ※時期は教科毎に設定	1月頃	全体授業研（教科）
5月25・26日	学習指導研究協議会（全教科1授業提案）								
10月頃	全体授業研（総合）								
9月～12月頃	教科毎の授業研 ※時期は教科毎に設定								
1月頃	全体授業研（教科）								